



LAYANG LAYANG

11-12月の出来事

キャメロンハイランドでの食品系廃棄物の堆肥化・リサイクル

11月11日、両国の関係者が廃棄物管理公社（SWCorp）に一堂に会し、本調査のキックオフミーティングを行いました。本調査では、野菜の生産地かつ避暑リゾート地であるキャメロンハイランドにおいて、食品系廃棄物の分別収集運搬体制の構築、楽しい（株）の装置を用いた廃棄物の堆肥化处理、さらに、堆肥を活用した有機野菜・果物のビジネス展開の可能性を探ります。調査の結果、事業が実現すれば、ごみの減量と堆肥を活用した付加価値のある野菜・果物の販売につながる事が期待されます。



意欲に満ちた関係者たち
マレーシア側の関心も高い

「マレーシア食品系廃棄物の堆肥化およびリサイクルループの構築に係る案件化調査」 期間：2017/10- 2018/9 マ側機関：廃棄物管理公社

クアラルンプールから車で一時間、クアラセランゴールで鮮魚



定置網で捕れた鮮魚
中にはナマズも

JICAと鹿児島大学水産学部は、マレーシア水産局、地元漁業組合と協力して、鮮魚を売りにした漁村開発の支援活動を始めます。

Sungai Sembilang 村では、これまでのJICAプロジェクトで設置した定置網から、捕れた魚を鮮魚の状態でもって村まで持ってくる事が出来るようになりました。鹿児島大学はプロジェクト終了後も支援を継続してきましたが、今度はこの村をモデルに“鮮魚が食べられる村”として漁村の生計向上を図る試みを始めます。また、定置網の利用ガイドラインを定め他の漁村にも定置網を普及させることを狙っています。

「マレーシアにおける漁村活性化モデルの構築と推進プロジェクト」 期間：2018年～（調整中） マ側機関：水産局

ジャパンデーで賑わうマレーシア日本国際工科院（MJIT）

11月9日、MJITでジャパンデーが開催されました。今回は、外交関係樹立60周年を記念した日本武道館一行による武道パフォーマンス、元日本留学生有志による「Japan Graduates Symposium 2017」、JICAボランティアによる日本文化紹介などがあり、例年以上の盛り上がりを見せました。東方政策の集大成としての性格を持つMJITが、今回のように交流・連携の拠点として活用され、今後ますます、両国の関係強化に貢献することが望まれます。



JICAボランティアによる
着付けや書道ブース

「マレーシア日本国際工科院整備 事業附帯プロジェクト」 期間：2013/7-2018/7 マ側機関：マレーシア工科大学

ボランティアが指導するサバチームが新体操の全国大会で入賞

12月に行われた新体操のマレーシア全国大会（Sirkit Siri2）に、佐近隊員（新体操）が指導しているサバチームが団体種目での出場し、U8の部門で5位、U10の部門で4位入賞を果たしました。

昨年のSEAGAMEでは、マレーシアナショナルチームが、個人、団体ともに優勝するなど、マレーシア全体の新体操技術レベルは近年益々上がってきています。サバ州の子どもたちも、全国、世界で活躍できる選手になることを目指して、毎日練習に励んでいます。



佐近隊員と
大会で入賞した選手たち

アジアでの電気・電子製品のリサイクルのリードを目指す

11月22、23日の二日間、JICAは、マレーシア環境局と共催で電気・電子製品のリサイクルに向けたアジア地域会合セミナーを開催しました。冷蔵庫、クーラー、テレビ、パソコン、携帯電話など、生活に欠かせない電気・電子製品の一部には有害物質や貴重な材料が使われています。しかし、途上国ではこれら製品がそのまま廃棄され、環境問題の一つとなっています。JICAではこれまでマレーシアに進出している日本の電気製品メーカーの協力も得つつ、マレーシアでのこれら6品目の適切な処分とリサイクルのための法制度の整備、ガイドラインの作成を支援してきました。今回、このセミナーには日本、台湾、ベトナムなどの国々から関係者が集まり、まだリサイクルを開始していない国々へも知識、経験を共有しました。



すでに始めている国、これから
取り組む国が知見を共有

「マレーシアにおけるE-waste管理制度構築支援プロジェクト」 期間：2015/6- 2018/2 マ側機関：環境局

その他のニュース

- 民間企業支援のスタンスが秘訣-第三国研修 貿易振興（2017年11月9日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171109.html>
- 【日本でのJICA Program参加者の声】ASEAN FESTIVAL 2017（2017年11月19日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171119.html>
- “生け花・ゆかた・折り紙・ひらがな・たこ焼き”-日本文化を広めよう！- 青年研修員同窓会による日本文化デー（2017年11月30日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171130.html>
- 中小企業を支援するシナジーを実感-アフリカ諸国向け第三国研修（2017年12月1日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171201.html>
- マレーシアの汚れた川を再びきれいに（2017年12月13日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171213.html>
- 【日本でのJICA Program参加者の声】日本留学生としてのワクワク感（2017年12月28日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171228.html>

マレーシアの進取の精神：インダストリー4.0

最近マレーシアの行政官と話をしていると必ず出る言葉があります、「インダストリー4.0」です。ドイツ政府が提唱する情報技術を使った産業の高度化という考え方ですが、エネルギー・グリーンテクノロジー・水省でも、科学技術省でも、人的資源省でも、教育省でも、どこに行ってもインダストリー4.0推進のための人材開発に協力して欲しいという話になります。たしかに、マレーシアが目指す2020年の高所得国入りを実現するためには、産業の高度化が必要で、インダストリー4.0の推進は理にかなった方針であると思います。ただ、少し前までは、どこに行っても「グリーンテクノロジー」という言葉をよく聞いた気がするのですが…、最近はほとんど聞くことがありません。マレーシアでは、新しいものが出たらとりあえず試してみようという旺盛な好奇心とそれを許す風土があるように感じられます。2017年から、クアラルンプールでも、自転車シェアリング事業が始まりました。日本ではまずは安全上の問題を議論し制度を整え、やっと実現となると思うのですが、マレーシアでは、とりあえず始めてみて、ダメなら見直そうという考え方のようです。自転車がそこら中に乗り捨てられ、否定的な議論もありますが、そうこうするうちに、今度は自転車専用レーンが新たに設けられ、これまでほとんど自転車を見たこともなかったのが、ちらほら自転車を見かけるようになってきました。環境負荷を減らすための自転車の導入は着実に進んでいるようです。

この他にも、仕事の通信手段としてのSNSの普及など、新しい物好きなマレーシア人の気質を見ていると、日本も早晚追い越されるのではないかと心配になってきます。

(JICAマレーシア事務所次長 深澤 晋作)



昨年からはまった自転車シェアリング

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp